

ふかしとけとへ韓所とつとを換んで次おあひといく
物のやうなものを天の定まらぬとけにあらわたりにわら
とくことなりとけおあひのあはれなりとけにわら
吏理よりいひくや男ふ人いばとけ賢者をも徳の
まへより及第してき友のふて家業よりけの人より
桂の木韓氏の家よりけとけわらわらとけ人より
ふよりわらわらとけわらわらとけわらわらとけ
ふよりわらわらとけわらわらとけわらわらとけ

繪本徳行譚三

繪本徳行譚卷之四

目録

國栖高邦	初丁
同虎壽丸	口
衛致瑜妻	二丁
冀欽	凡丁
下道君首名	五丁
凍蕃	六丁

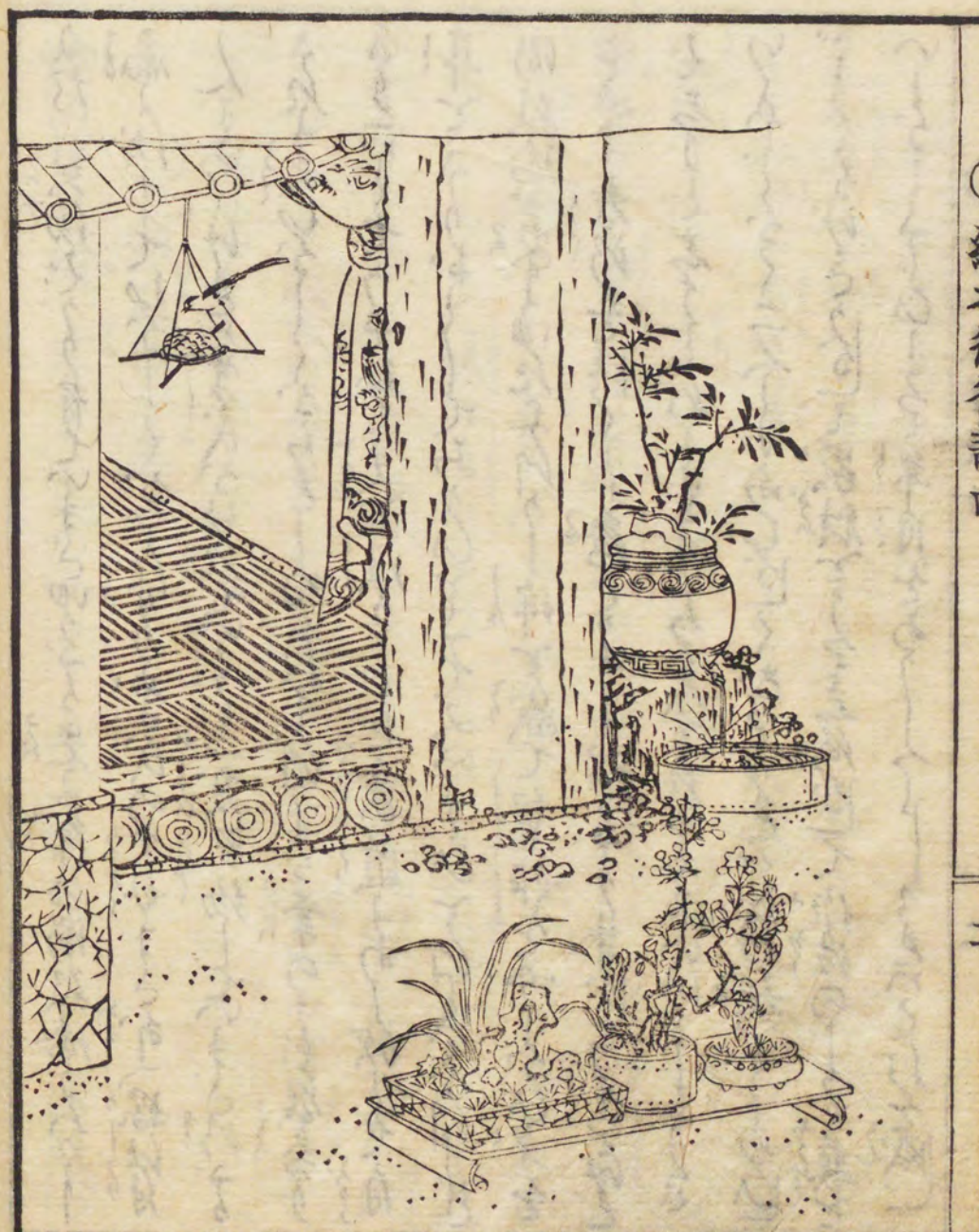
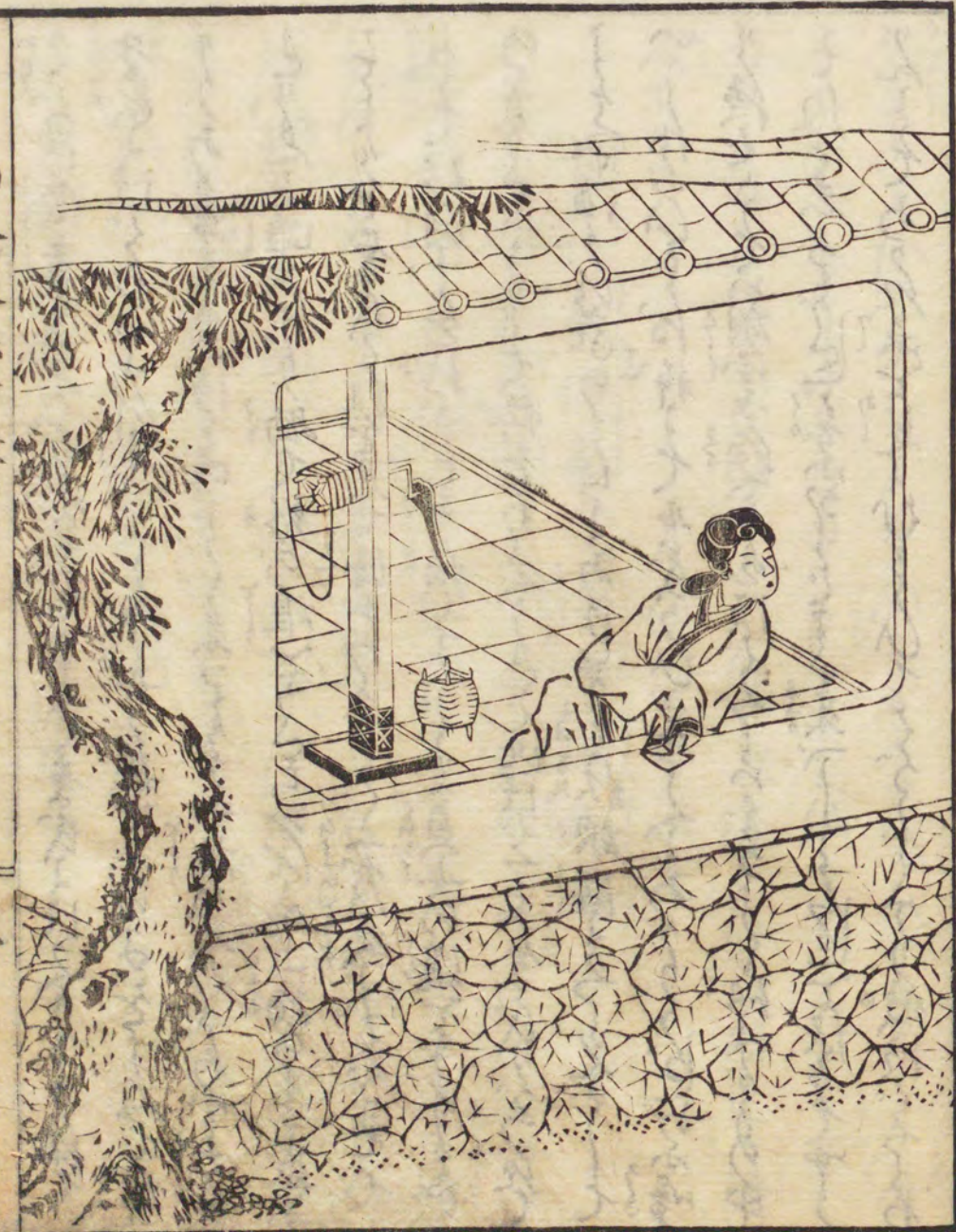
曾子
 王駿
 房匡女
 餘干
 兼澤屋集
 楊序

七丁
 八丁
 十丁
 十二丁
 十三丁

繪中德行談卷之四

○國栖高邦

吉野の國栖の氏人帶力先生兼大和守と邦は吉野名城
 兩郡の割據せしは後醍醐天皇を遷座しつゝく
 遂に其氏の所を發してやせし車駕吉野より入るは邦
 神武の國よりして君の正統とたも奉つて久しく其邦
 公卿を客とせしは邦の氏士を國栖とす其家の一族にて
 中いひまやや村と號する家の將軍の調練せし軍を以て
 九州四國より送りしは凶徒等が其糧食を備播の計をたて
 るて官をたてしを敵方よりこれを海賊とてつゝ其を
 邦庭に其の忠良なるは管九波堂とて其家にて其の後
 してや其邦の南の股腕なり



（終）

二三日かき居るがこれに於て死する人々ありて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
月ありて其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
漢水のやうにありて其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて

○冀缺

文公の臣旧唐と云ふ人を著して忠直敦厚の者なり
ありて其氏の冲度よりて冀缺と云ふ人なり
農を耕耘して居るにその書食物をりてきたり
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
文公の臣旧唐と云ふ人を著して忠直敦厚の者なり
ありて其氏の冲度よりて冀缺と云ふ人なり
農を耕耘して居るにその書食物をりてきたり
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて

食と云ふは者なりて其氏に於て死してをりて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて

○下道君首名

流後等下道君首名元正天皇の御代は一人なり
律令に長し吏職なりて和親の國司と云ふ
を名に農氏は一人なりて其氏に於て死してをりて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて
其氏に於て死してをりて其氏に於て死してをりて



陳蕃

罪を赦さるゝやうに祈るといふ

○
魯ろ
子

大聖文宣王の御身子曾子ハ聖門道統と受傳て遺授也
大賢者ありて妻女ハくましくたれたるありわしハ骨
子との妻女と梨と焼くやとより半焼ふとけとべ今て
よく焼就てとや付らとよりと湯でとけととこの妻と
きとよりとあり人いつ妻女と割りてありとてその法のか
らとやとやれど曾子とてとやとてかかとてのをと
救のうらうはわととれど梨と焚かとの半まの心小
りのかきとてとてとてはととたとのかとてとてと
とまの名とてととととてとてとてとてとてとてと
とてといの割りてとて妻女の腹り曾花元といへる考

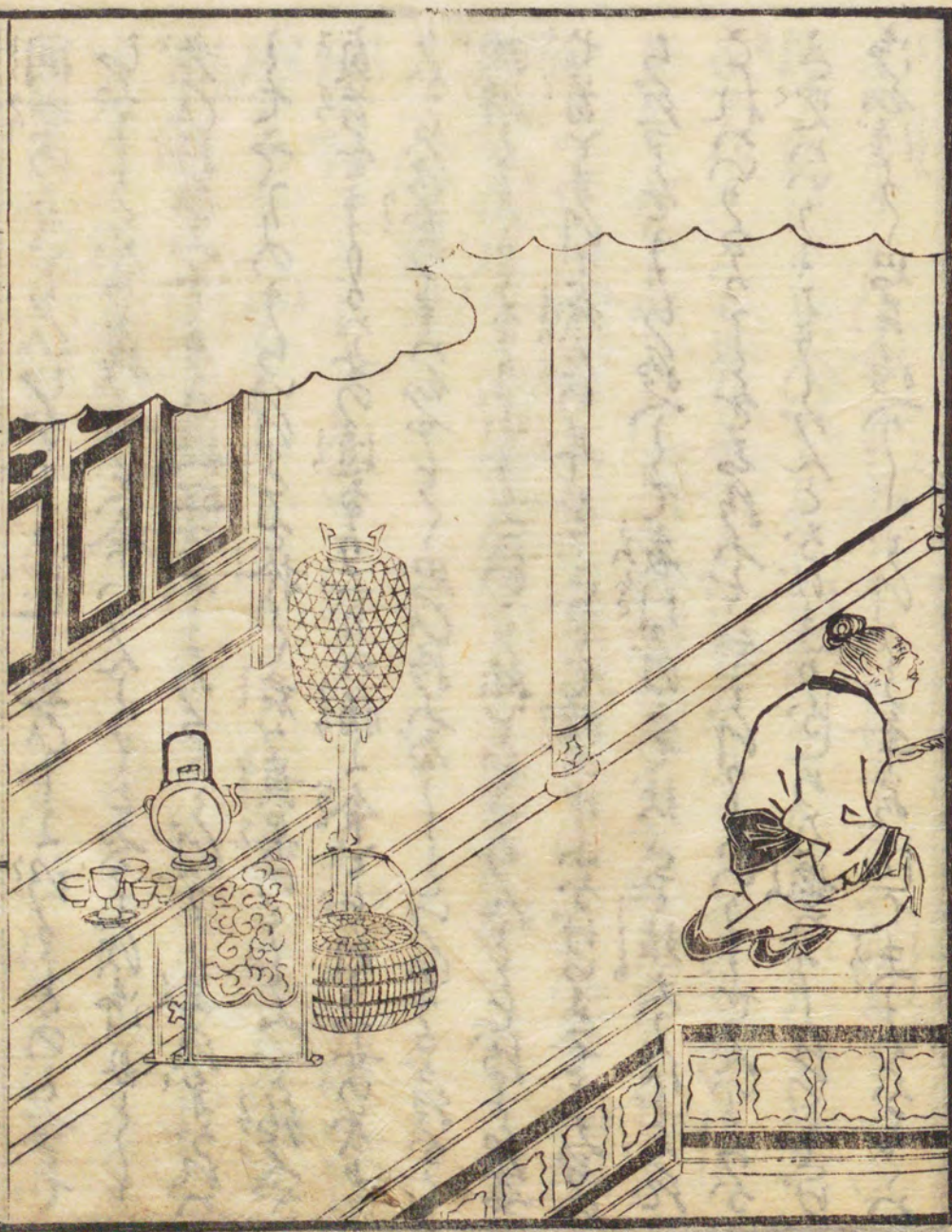
○
王
駿

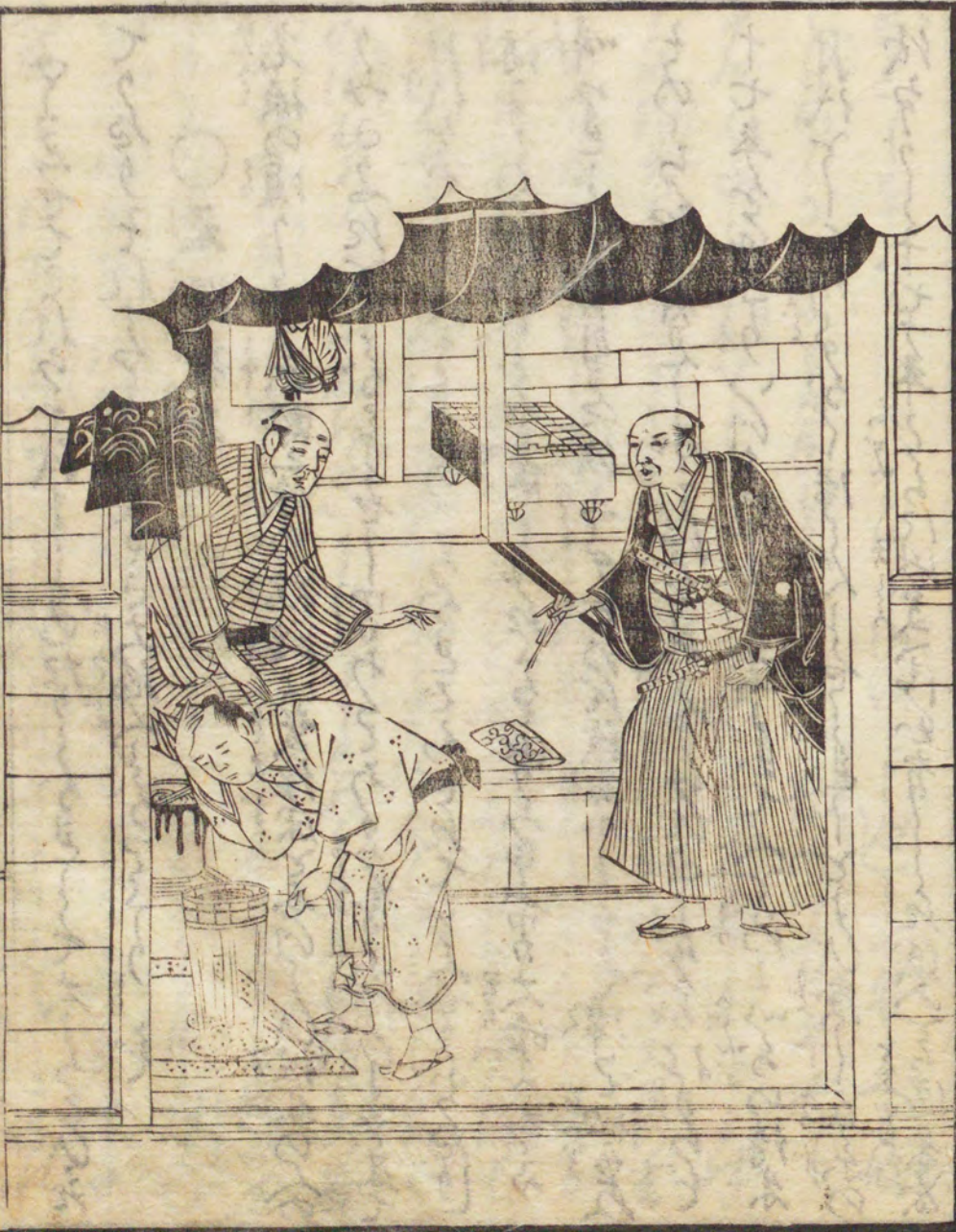
我子曾死^{うご}に^{きく}考^{かう}ひ^ひふ^ふづ^づづ^づ禍^{わざはひ}の^のり^りに^に後^ご妻^{さい}と^と死^しる^るふ^ふあり^{あり}

とてはふと終つてまて二度妻とりとあごにともなり

○
房ふ江え女むすめ

魏の房ほろ女いゝれがさゝれを節操して十六歳より
して魏傳とて人の妻とされどもあつた年のなれはま病
はしきふつとていよくなり魏傳とてびをせかりくとい
ふと我は度いとも活べしとてなりぬりといふと天令され
かこころみどつてあつた老母年よりして汝年より
らう此小史出づして東西よりて次は小史と雖うたのむだ
このふたれのも黄泉のさうりからとてかゝるさうり
妻女ををせめてなげこいゝとていゝとていゝとていゝと
の聖賢のけいをせめていゝとていゝとていゝとていゝと





清
みさ
る
は
は



糸澤屋の冠地い承初折る湯之條運ちていり一向道湯の
 小隣あると根木はなふは合ふ事案とがりし処二ヶ月の
 主入の着失と好し町人相後の事とさむわうしと
 月元且の奴僕い大服の茶を焚けいといふく茶袋と
 年踏皮とる遠て茶と煮に臭れさくくく飲めりもの
 こそとて店のもや味のから飲とさふ新ひけく濃

糸澤屋の冠地い承初折る湯之條運ちていり一向道湯の
 小隣あると根木はなふは合ふ事案とがりし処二ヶ月の
 主入の着失と好し町人相後の事とさむわうしと
 月元且の奴僕い大服の茶を焚けいといふく茶袋と
 年踏皮とる遠て茶と煮に臭れさくくく飲めりもの
 こそとて店のもや味のから飲とさふ新ひけく濃

糸澤屋の冠地い承初折る湯之條運ちていり一向道湯の
 小隣あると根木はなふは合ふ事案とがりし処二ヶ月の
 主入の着失と好し町人相後の事とさむわうしと
 月元且の奴僕い大服の茶を焚けいといふく茶袋と
 年踏皮とる遠て茶と煮に臭れさくくく飲めりもの
 こそとて店のもや味のから飲とさふ新ひけく濃

○楊序

宋の楊序とていふ先祖より大に富める人なりしがある夜の
 夢よりわかれ装束して美人とていふは冷き夢なり
 て今十日のうらふれとていふは日暮るの法徳とていふ
 女は此のものいのかをさむけさる今に延びていふ楊序
 大にわかれ今十日のうらふれとていふは冷き夢なり
 とていふは冷き夢なりとていふは冷き夢なり



いゝ奥の印へ塩漬を食ふと一年の内ハいふふいふといふ
 のふふといふふふとこれぞけづるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 けづるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゝ印を置りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 米を煮ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 八十五の天年を令せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

繪本徳行譚巻五

繪本徳行譚巻五

目録

魏徴 門
 樊姫衛姫 二丁
 上野朝村 六丁
 周封新婦 七丁
 歐陽永叔母云
 宋 魏

初丁
 二丁
 六丁
 七丁